

2026 年 10 月

愛知県高等学校・中学校ゴルフ連盟団体登録校顧問
愛知県高等学校・中学校ゴルフ連盟登録選手 各位

愛知県高等学校・中学校ゴルフ連盟理事長
吉田 真二

競技ゴルフにおける基本的ルール理解とその遵守について

本連盟の試合のルールは、日本ゴルフ協会ゴルフ規則及び中部高等学校・中学校ゴルフ連盟主催大会ローカルルールを適用しています。

各ゴルフ場独自のハウスルールや普段のプライベートゴルフ、コンペティションで慣用的に用いられているルールを用いて処置をすると、ペナルティーの対象となり、罰打を付加されるだけでなく、場合によっては競技失格となりかねません。

平等な条件の下、練習の成果を発揮し、選手各々が切磋琢磨できるようにするためには、顧問の皆様のご指導と、選手自身の正しいルール理解と遵守が必要不可欠です。

以下に、ごく基本的なルールの一部を挙げておきます。

- ① 自打球が OB もしくは紛失球になった場合は、必ず元の場所から 1 罰打を付加して打ち直しとなります。(プレー進行が遅くならないように、OB・紛失球の恐れがあると判断した場合は暫定球を事前に打っておきましょう。)
プライベートコンペ等で用いられる「OB ゾーンを横切った地点から 2 罰打を付加してプレイ」や「特設ティー(通称プレイング 4 等)からプレイ」というルールは本連盟の競技においては適用されません。
例：ティーイングエリアからの 1 打目が OB の場合、1 罰打を付加し、ティーイングエリアから 3 打目を打つこととなります。
- ② 自分のボールを自分で触れたり動かした場合、基本的には 1 罰打が付加されます。
自分のボールか確認したい場合はマークをして拾い上げ、そのまま元の状態にリプレーします。泥をすべて綺麗に拭き取る等すると 1 罰打が付加されます。
(ボール探索中、誤って蹴飛ばしてしまった等、例外として無罰となるケースもあります。)
- ③ 他人のボールを触れたり動かしたりした場合は、動かした人が元の位置に戻してください。この場合のペナルティーはありません。
- ④ 暫定球を打つ場合、事前に打った球の番号と暫定球の番号を自分で確認し、同伴競技者に宣言しましょう。自分の打った球かどうか証明できない場合、どちらが事前に打った

球が暫定球かわからない場合は、最悪どちらも紛失球になり、元の場所から打ち直さなくてはなりません。

- ⑤ ニアレストポイントは「元のボールの位置に最も近く、ホールに近づかず、障害物（カート道やスプリンクラーなど）が完全になくなるコース上の1点」なので、原則として一カ所しかありません。ニアレストポイントを基点とする救済エリアの作り方についてはJGA発行「ゴルフ規則」規則16.1等を参考にしてください。
- ⑥ ボールをドロップする場合は「膝の高さからプレーヤーや用具に触れないように真下に」「救済エリア内に」正しくドロップすること。正しい方法でドロップをしたが、「救済エリア内に止まらなければ」正しい方法で2回目のドロップをしなければなりません。2回目のドロップも救済エリア内に止まらなければ、2回目にドロップした球が救済エリア内に落ちた際の場所にプレイしてください。

この他にも複雑なルールは多々ありますが、競技委員長への質問や、2ボールプレーを利用し、安易に間違った処置を適用しない習慣を身につけてください。

大会・競技におけるルール上のトラブルを回避し、円滑な運営・進行のためには、正しいルール理解と遵守が不可欠です。選手の皆さんと顧問の先生方には、あらためてご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

【参照リンク・関連資料】

日本ゴルフ協会（JGA）公式ルール・ゴルフ規則ポータル <https://www.jga.or.jp/rules/>

中部高等学校・中学校ゴルフ連盟（関連大会情報） <https://chsga.info/>